

対応区分	区分		番 号	意見・提案	対応・考え方
反映	第1章「今、なぜ 京都観光か」	指標	1	住民視点、留学生視点、外国人観光客視点の指標が必要である。	御指摘を踏まえ、下記のとおり修正します。また、観光客の満足度等をはかる際には、日本人と外国人を別々に把握できるよう工夫します。 ⇒第1章2(5)指標に「市民の観光に対する意識」を追加
反映不可		観光振興が京都にもたらす影響	2	マイナス面として、バス停などの混雑、静寂な住環境の悪化など「住民生活への悪影響」、「文化財の損傷」についても記載し、対策を明記していくべきである。	「観光振興が京都市にもたらす影響」は、プラスとマイナス両面から、数値を用いて客観的に表しているため、御指摘の点を記載することは困難ですが、公共交通の利便性向上、観光客のマナー向上等を通じて、市民生活への支障をなくす取組も進めてまいります。
今後検討	第4章 7つのプロジェクト、動く	1「暮らすように旅する」プロジェクト	3	京町家の宿泊施設としての活用の際には、業界におけるフェアな競争環境の維持という観点から、京町家ではない木造建造物や鉄筋・鉄骨建造物についても同様の規制緩和をすべきである。	京町家を宿泊施設として活用するための課題整理を進めるに当たり、御指摘の観点も参考にさせていただきます。
今後検討			4	京都一周トレイルを東は醍醐方面へ、西は洛西、大原野方面へコースを延長してほしい。	京都一周トレイルについては、まずは既存コースの充実、PRの強化に努めます。コース延長についても活性化策の一つとして検討してまいります。
実施済み			5	レンタサイクル業者に自転車マップを配布してほしい。	「京・駐輪マップ」については、放置自転車対策を目的として発行したもので、基本的には区役所・鉄道駅・観光案内所等の公共的な施設での配布を基本と考えております。レンタサイクル業者から配布の協力について申し出をいただいた場合にはお渡ししております。
実施済み			6	市営駐車場に駐輪スペースを設けてはどうか。	市営駐車場のうち、観光駐車場については、条例に基づき、若干ながらも以前から自転車の駐輪を受け入れております。他の市営駐車場については、構造上、自転車の場内走行が危険であることなどから実施は困難であると考えます。
今後検討			7	レンタサイクル業者と連携し、パーク＆サイクルを充実してほしい。	自転車は環境にやさしい乗り物であり、京都の市街地がコンパクトであることから、有力な交通手段ではありません。当面は、安全な走行環境の充実を図るため、放置自転車対策や駐輪場、自転車走行空間の整備などに取り組んでまいります。
今後検討			8	京の冬の旅、夏の旅で自転車観光のプランを取り上げてはどうか。	自転車を利用した観光については、環境面や健康面で人にやさしい観光をアピールできることから、効果的なPRの方法を検討してまいります。
今後検討			9	京都の大学生拝観料半額の日を設定してはどうか。	平成21年度から、10月の第2土曜日、日曜日を含む前後4日間を「Student Days」として、京都市の文化施設に無料で入場できる事業を実施しています。今後、京都市の施設以外での実現可能性について検討してまいります。
今後検討			10	京都の児童・学生が、自分の学区の「京都」を自慢する仕組みを創出してはどうか。	京都の小・中学生、高校生、大学生が自分のまちの歴史や文化、地域の魅力をしっかり認識し、深く学ぶことで、京都に対する誇りと観光客へのおもてなしの心を醸成するよう、市民の京都再発見プロジェクトを推進する中で検討してまいります。
今後検討		11	京都の児童・学生向けに、公共交通機関の利用法、道案内の対処方法などの教育(安全・防犯教育も兼ねて)をしてはどうか。	観光副読本を作成・活用する中で、御指摘の観点も取り入れてまいります。	
今後検討		12	小学校と地域を結んだ取組をしてはどうか。	各学校において地域と連携した取組が進められていますが、子どもたちが自分のまちの歴史や文化、地域の魅力をしっかり認識し、深く学ぶことで、京都に対する誇りと観光客へのおもてなしの心を醸成するよう、市民の京都再発見プロジェクトを推進する中で検討してまいります。	

今後検討	第4章 7つのプロジェクト、動く	3「市民の京都再発見」プロジェクト	13	行政区ごとにいつでも学べる市民主体(市民自らが企画・運営)の京都学連続講座を開講してはどうか。	市民参加によるおもてなし観光を推進する中で、市民主体の取組として実施することが可能か検討してまいります。
今後検討			14	市民が京都を再発見する日を設定してはどうか。	市民の京都再発見プロジェクトを進める中で、検討してまいります。
今後検討			15	自分の住んでいる地域、あるいは親が京都出身ならその出身地域のことを学習する機会を創出してはどうか。	まちの歴史や文化、地域の魅力をしっかり認識し、深く学ぶことで、京都に対する誇りと観光客へのおもてなしの心を醸成するよう、市民の京都再発見プロジェクトを推進する中で検討してまいります。
今後検討			16	京都検定など京都を学んでいる者の協力を得て、誰でも自由に参加できるような講座を開講してはどうか。	市民参加によるおもてなし観光を推進する中で、検討してまいります。
今後検討			17	市民割引や地域割引(周辺住民を対象)制度など、優待をインセンティブにした観光教育を推進してはどうか。	市民の京都再発見プロジェクトを進める中で、検討してまいります。
今後検討			18	京都学連続講座修了者および京都・観光文化検定合格者の参加を得て、新たな観光案内ボランティア制度を構築してはどうか。	様々な分野でボランティア活動をされる市民・団体が、それぞれの分野で活躍し、連携できるような仕組みづくりを検討してまいります。
今後検討			19	行政区ごとに観光客と観光案内ボランティアなどの市民が触れあえる交流の場を創出してはどうか。	様々な分野でボランティア活動をされる市民・団体が、それぞれの分野で活躍し、連携できるような仕組みづくりを検討してまいります。
今後検討			20	観光客を我が家に招く仕組みづくりをしてはどうか。	様々な分野でボランティア活動をされる市民・団体が、それぞれの分野で活躍し、連携できるような仕組みづくりを検討してまいります。
今後検討			21	市民と留学生、外国籍市民、長期滞在者とのふれあいの場を創出してはどうか。	市民参加によるおもてなし観光を推進する中で、検討してまいります。
今後検討			22	市民がまちを語る場に観光客を招き交流できる場を創出してはどうか。	市民参加によるおもてなし観光を推進する中で、検討してまいります。
今後検討			23	京都に関する知識の有無にかかわらず、関心を有する市民が自由に参加出来るボランティア団体を作ってはどうか。	様々な分野でボランティア活動をされる市民・団体が、それぞれの分野で活躍し、連携できるような仕組みづくりを検討してまいります。

今後検討	4章 7つのプロジェクト、動く	3「市民の京都再発見」プロジェクト	24	新たに「4市民の京都力を積極的に活用する仕組みづくり」を追加して、市民が設置・運営する観光案内ボランティアセンター事業の援助をしてはどうか。	様々な分野でボランティア活動をされる市民・団体が、それぞれの分野で活躍し、連携できるような仕組みづくりを検討してまいります。	
今後検討			25	新たに「4市民の京都力を積極的に活用する仕組みづくり」を追加して、観光客が市民からいつでも必要な情報を得られるよう、一定の研修を受けた市民に「おもてなし」バッジを交付する仕組みを構築（インセンティブを付与することも検討）してはどうか。	様々な分野でボランティア活動をされる市民・団体が、それぞれの分野で活躍し、連携できるような仕組みづくりを検討してまいります。その中で、おもてなし観光を実践している人を登録する「おもてなしの達人（仮称）」制度の創設等を考えております。	
盛り込み済み			26	ボランティアガイドの育成も結構だが、既往のガイド従事者の利益を損なわない配慮が必要である。	御指摘の点にも留意しながら、幅広い市民参加によるおもてなし観光の推進を図ってまいります。	
今後検討			27	京都の大学生に（もちろん観光客にも）もっと京都を知ってもらうため、別府市の温泉名人を真似て、お寺・神社を100か所訪れたら「京都達人」になれるシステムをつくってはどうか。	京都の小・中学生、高校生、大学生が自分のまちの歴史や文化、地域の魅力をしっかり認識し、深く学ぶことで、京都に対する誇りと観光客へのおもてなしの心を醸成するよう、市民の京都再発見プロジェクトを推進する中で検討してまいります。	
実施済み			28	観光に関する市民宣言を実施すべきである。	京都市市民憲章（昭和31年制定）に基づき、「旅行者をあたたかく迎える」気運の醸成に努めてまいります。	
反映			29	京都への修学旅行の多い都道府県や京都の大学の公開講座受講者数など観光に関する情報をデータベース化して市民の興味をひいてはどうか。	御指摘を踏まえ、下記のとおり修正したうえで、情報発信を工夫してまいります。 3「市民の京都再発見」プロジェクト 2 市民が京都を知る仕組みづくり ○ 観光情報の市民向けの発信の強化 ⇒ ○ 観光情報や京都観光に関するデータの市民向け発信の強化	
今後検討			30	市民団体や市民各層に対し観光推進計画の内容を説明、計画への自発的な参画を働きかけるべきである。	これまでから、市政出前トーク、大学での講義等を通じて市民の皆様説明する場を設けてまいりました。引き続き、幅広い市民の皆様へ、あらゆる機会を通じて計画を説明してまいります。	
今後検討			31	市民、国内・海外からの入浴者など皆が楽しめる、様々な文化の融合を含めた国際芸術祭典としての「京都文化祭典」を開催すべきである。	京都の文化や知恵、匠の技を心で”みる”観光の充実を図る中で、国際的な視点も取り入れてまいります。	
実施済み			32	市民の関心を高める方法として、無料パスや割引など老人がもっと市内を観光できるようにすればよいのではないか。	市営地下鉄・市バスのパスや高齢者割引等は京都市においても実施しております。今後は高齢者の方をはじめだれもがより出かけやすい情報提供や、歩道の段差解消など、ユニバーサルツーリズムの推進を図ります。	
今後検討			4「心で”みる”京都」プロジェクト	33	閉校された小学校に「映画の殿堂」を開設し、散逸しそうな映画関係資料の保管、大学への研究資料提供、一般への公開、ロケ地支援サービスの事務局・京都映画祭の事務局の移転、若者の撮影拠点、映画技術の教育の場として活用するとともに、宿泊先に宇多野ユースホステルを使って、宇多野ユースホステルもそれを発信してはどうか。	「京都映画文化会議」や「京都市フィルム・オフィス」において映画の振興、ロケ支援を検討する際、学校跡地を活用した活性化策の一つとして今後検討してまいります。 宇多野ユースホステルの活用と発信については、引き続き進めてまいります。
反映不可				34	だらだら歩いているように見えるのを防ぐため、葵祭の行列に鳴り物を加えるべきである。	御意見を主催者に伝えます。
今後検討				35	医療文化のふるさとの重要なスポットとして、医聖堂についての案内地図や道標を作成すべきである。	2-1「歩いて楽しむための環境整備」にありますように、「観光案内標識アップグレード」の中で検討してまいります。
反映不可	36	京都に住む者が京都をより深く知り、きめ細かい案内ができるようになるため、「京都 知恵と力の博覧会」を、イベントの数を絞り込み、質を重視し、広報活動に力を入れて来年も開催してほしい。		「京都 知恵と力の博覧会」の成果を生かし、先人の知恵や工夫・努力で積み重ねられてきた京都のほんまものの魅力を、じっくり味わえる「ふれあう観光」を推進してまいります。		

今後検討	第4章 7つのプロジェクト、動く	5・「観光客の不満をゼロに」プロジェクト	37	渋滞解消のため、車を流動させる方策として、タクシー利用を増やしたり、自家用車の運転代行をしてはどうか。	タクシーは、公共交通機関としての役割を担う便利な交通手段である一方で、客待ち時のマナーや大量の空車タクシーの走行による交通渋滞と環境への影響などの問題があります。 タクシーの交通手段としての位置付けの明確化を図るとともに、効果的な活用について、今後、検討を進めて参ります。
反映			38	「観光客と住民双方の不満をゼロに」とし、住民の不満をゼロにする施策を明記すべきである。	交通や案内、マナーの向上など、観光客の不満を解消することは、ひいては住民にとっても住みやすいまちの実現につながるものと考えています。御指摘の点を踏まえ、5の前文に『「市民の不満解消」にもつながる』という文言を追加します。
今後検討			39	京都市は、美しい低床式の路面電車ですべきである。	LRTの導入については、国の支援制度の活用や民間事業者との連携、導入方法や採算性など様々な課題整理を行い、導入を検討する組織を立ち上げ、取組を進めて参ります。
盛り込み済み			40	蜘蛛の巣のような電線は幻滅である。	5-5「美しいまちづくりの推進」にありますように、無電柱化を推進してまいります。
反映			41	社寺のトイレが汚く、恥ずかしい思いをした。	御指摘を踏まえ、下記のとおり修正するとともに、社寺で管理されているトイレについても、関係者への啓発を行ってまいります。 5「観光客の不満をゼロに」プロジェクト 4ユニバーサルツーリズムの推進 ○ 観光地の公衆トイレのユニバーサル化の推進(車いすトイレの設置や和式便器の洋式便器化等) ⇒ ○ 観光地のトイレの充実と美化の推進
反映			42	ビルや大木などのため、大文字を拝める場所が減ってきている。	御指摘を踏まえ、5「観光客の不満をゼロに」プロジェクト 5美しいまちづくりの推進 に、「新景観政策の推進」を重点事業として盛り込みました。
今後検討			43	観光客の多い地区(東山エリア)等では、春・秋の観光シーズンには、禁煙区域とし、違反者に対しては過料を徴収し、マナーを向上してほしい。	平成19年6月に制定した「京都市路上喫煙等の禁止等に関する条例」により、市内全域の屋外の公共の場所で路上喫煙をしないよう努力する義務を課しております。 今後とも、市民や観光客の皆様の御協力を得て、市内全域で喫煙マナーの向上が図れるよう取組を進めて参ります。
反映不可			44	お寺の拝観料が高すぎる。パスポートなどの発券を検討してほしい。(2件)	御意見を関係者にお伝えします。
盛り込み済み			45	観光業界に携わる全ての人の観光客への一言、一秒の態度、動作、気遣い・心配りのなさ、マナーの質を向上させるべき。	京都観光を支える人的パワーの向上を図るため、観光関連業界の人材育成を通して、質の高いおもてなしを目指してまいります。
反映不可			46	同じ商品の販売価格の違いによるトラブルがある。処理の対応をするべきである。	観光客の満足度を高めるため御意見を関係者に伝えます。
今後検討			47	修学旅行生など団体旅行者に「食事の質と料金の対比」の情報を提供すべきである。	京の食文化の魅力を発信する中で、検討してまいります。
盛り込み済み			48	ツーリスト関係の係員のモラル低下を防ぐべきである。	京都観光を支える人的パワーの向上を図るため、観光関連業界の人材育成を通して、質の高いおもてなしを目指してまいります。
今後検討			7「京都の魅力うまく伝える」プロジェクト	49	雨天時の対策として、「雨」のときの魅力の発信を盛り込むべきである。
盛り込み済み	第5章「ターゲット別戦略」	全体	50	重要ターゲットの一つに20代～30代の女性を加えるべきである。	若い女性については、6「新たな京都ファン獲得」プロジェクトの3に位置付けており、新たな京都ファンに取り込んでまいります。

盛込み済み	第6章「計画を しっかり推進す るために」	1「取組主体と役 割」	51	誰が何をするのか、具体的な役割分担が必要である。	役割分担については、第6章に基本的な考え方を示しておりますが、これを踏 まえて、各主体にとって「京都観光の羅針盤」として機能するよう計画の定着を 図ってまいります。
盛込み済み			52	京都市はもとより、京都府、近畿圏等広域行政、国、有識 者、民間のオールジャパン・京都の知恵を結集し、ヒューマン ネットワークを確立すべきである。	第1章及び第6章にありますとおり、この計画は様々な取組主体による「共汗」 と「融合」により推進してまいります。
実施済み		3「京都観光を支 える人的パワー の向上」	53	観光系学部の設置に向けた取組を進めてほしい。	京都には、既に複数の観光に関する学部・学科があり、「京大学」等が学べる 大学も数多くあります。学部・学科の設置については、個別大学が判断する こととなりますが、本市主催の市民向け生涯学習事業である「京(みやこ)カレッ ジ」において、伝統的な文化芸術等、京都ならではの学習プログラムの開発・ 提供を進めてまいります。
今後検討			54	京都観光に携わる全ての方の「見えない心のふれあい観光 大使」バッジや観光大使店を創設してはどうか。	様々な分野でボランティア活動をされる市民・団体が、それぞれの分野で活 躍し、連携できるような仕組みづくりを検討してまいります。その中で、おもてな し観光を実践している人を登録する「おもてなしの達人(仮称)」制度の創設等 を考えておりますが、御指摘の点も今後検討してまいります。
今後検討		6「財源の確保」	55	財源の確保として、宿泊税を検討すべきである。(3件)	御意見を参考に今後検討してまいります。
今後検討			56	観光客にも一定の負担を求めるべきである。(2件)	御意見を参考に今後検討してまいります。
盛込み済み		プラン全体意見		57	「1人のお客さん」が5000万人観光都市を支えているとい うことを再認識し、心して望むべきである。市民との会話も楽しい 思い出になる。
反映	58			越畑、大原、中川・小野郷・雲ヶ畑・京北の活用も計画に盛り 込んでほしい。	御指摘を踏まえ、4「心で”みる”京都」プロジェクト 2京都の暮らしや日常生活 を体験できる取組の推進 ○地域と一体となったエリア観光の促進 に具体 的に盛り込みました。
盛込み済み	59			課題群と目指すべき姿との関連性が見えない。	京都観光の現状と課題、目指す方向性の関連については、中間案には明記し ておりませんが、策定委員会や部会での議論を踏まえて作成しています。
反映	60			プロジェクトの優先順位を明確にすべき。	御指摘を踏まえ、優先度の高い施策を重点事業として位置づけました。
反映	61			様々な取組例の具体的な内容は何か。	御指摘を踏まえ、「取組例」を具体的な推進事業・重点事業に精査しました。
反映不可	62			京都市が行う取組とその期間・経費はどの程度か。	観光は、社会経済情勢などに大きく影響され、将来を見通すことが困難なた め、本計画では、本市が行なうものも含め、今後の取組を網羅的に列挙するの ではなく、シンボリックな事業を示すにとどめ、その時々状況を鑑みて事業化 することとしているため、経費の算出は困難です。
今後検討	63			計画に必要な経費はどのように賄うのか。	取組主体ごとに財源の確保に努めることとなり、京都市については、市財政の 健全化を進める中で確保策を検討します。

盛込み済み	MICE戦略	64	MICE誘致実現のための具体的な道筋を記すべきである。	「4. 施策の方向性」で一定示しておりますが、市・府・業界等の各関係者と協議のうえ、実施計画を定めることとしております。
反映不可		65	関西空港の国際ネットワークも貧弱であり、国際空港からの交通アクセスが不便である京都は大規模なコンベンションやイベントの誘致は不可能であり、検討をやめるべきである。	MICE振興は、京都のブランド・都市格の向上、市民生活の活性化等にとって欠くことのできない重要施策であります。
盛込み済み		66	特別なレセプションやエクスカーションに寺院・神社、博物館、美術館など京都ならではの魅力を活用するのは良いことだと思う。	ご指摘のとおり、京都ならではの魅力を発揮できるような会場の活用を進めることとしております。
反映不可		67	MICE誘致には京都の文化的かつ歴史的資源だけでは全く不十分で、カジノのようなレジャー施設の誘致が最低条件だと思う。	歴史・文化施設など京都の強みを発揮できる施設の活用を優先して取り組みたいと考えております。
今後検討		68	エリア別に重点対象国を決め、アジアであれば中国について、関連するすべての人材の情報を掌握活用する「京都市中国都市ヒューマンネットワーク」を構築してはどうか。	MICE誘致に当たっては、マーケティングの強化や世界的なネットワーク作りが重要と考えており、ご提案についても検討を進めてまいります。
今後検討		69	MICEに関しては食事のサービスをよく考える必要がある。招いても食べるものがなくては逆効果。	MICE誘致に向け、食のサービス向上を含む観光の質の向上についても、今後検討してまいります。
今後検討		70	いろんな催物の会場として護王神社の施設をもっと活用してはどうか。	MICE会場として、寺院神社、博物館、美術館等の多様な施設の活用について検討を進めてまいります。
今後検討		71	岡崎地域や、岩倉の国際会議場周辺などに、視覚障害者の方だけでなく誰にでも分かりやすい「光る点字ブロック」を導入してはどうか。	MICEの受入環境については、ユニバーサルデザインの導入を含む多様な視点から整備を進めてまいります。